

平成26年度第4回入札監視委員会議事概要

開催日時及び場所	平成27年3月13日(金) 海上保安庁会議室(11階)	
委員	委員長 平野 廣和 ;中央大学総合政策学部教授 委員 杉本 洋文 ;東海大学工学部教授 委員 伊藤 文夫 ;弁護士	
抽出案件		<備考>
工事	2件	
(小計)一般競争	2件	
公募型及び工事希望型指名競争	-	
指名競争	-	
随意契約	0件	
建設コンサルタント業務等	1件	
物品又は役務等	1件	
合計	4件	
	意見・質問	回答
委員からの意見・質問、それに対する海上保安庁の回答等	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申又は勧告の内容	なし	

別 紙

委 員	海 上 保 安 庁
<p>1．入札・契約手続の運用状況及び指名停止運用状況並びに入札結果等</p> <p>なし</p>	
<p>2．抽出事案の審議 < 工事：一般競争契約 ></p> <p>「運天港第一号灯浮標ほか6基交換ほか1件工事」(第十一管区)</p> <p>今回の工事と同種の工事を発注した実績はあるか。</p> <p>このような工事は、海上保安庁以外に実施していないと思われるが、予定価格の積算にあたり、過去の発注実績をデータベース化等し、過去の実績から予定価格を算定しているのか。</p> <p>過去の実績が多い工事については、業者側も工事の詳細を把握しているので、そういった状況を前提に競争させればもっと安く契約できるのではないか。</p> <p>1基あたりの作業工程はどれも同じか。</p> <p>落札率が高い工事もあれば低い工事もあるのは気になるが、過去の実績をデータベース化し分析すると良い。</p>	<p>第十一管区では1年で3件程度の契約実績がある。</p> <p>それぞれの工事で仕様が若干違うこともあり、過去の実績に基づく実勢の価格を予定価格とすることは難しいところがある。</p> <p>過去の実績をみると落札率が低い工事もあれば高い工事もある。</p> <p>また、自社船を保有している会社と保有していない会社があるため、実勢に基づく予定価格の積算は難しいと考える。</p> <p>基本的に同じである。</p>

<p><建設コンサルタント：一般競争></p> <p>「慶佐次ロランC局敷地土壌調査（詳細調査）」（第十一管区）</p> <p>見積もりは3者から徴取していますが、落札業者は落札率35%でも受注したいという考えだったのか。</p> <p>管理技術者の経歴によると毎年同様な調査を実施しているようだが如何か。</p> <p>前回は低い落札率であったのか。</p> <p>応札業者の中には、入札金額が10倍近く違う業者もいるが如何か。</p>	<p>3者から見積もりを徴取している。受注者からは、実績をつくりたいということで受注したと聞いている。</p> <p>平成25年度にも同様に慶佐次ロランC局で土壌調査を実施しており、その際はダイオキシンの調査を実施した。</p> <p>前回の落札率は、93%で落札している。</p> <p>聞き取り調査をしたところ、東京から作業者を派遣しているので入札金額が高くなったとのことである。</p>
<p><役務：一般競争契約></p> <p>「航空整備管理サブシステムサーバー1式借入及びシステム保守業務」（海上保安庁）</p> <p>見積書の内訳を見たが、平成21年度と平成26年度の金額が変わらないのは如何か。</p> <p>見積もりは1者だけしか徴取していないのか。</p> <p>IT関係は年々価格の変動が大きいので価格の妥当性を把握する必要があると思慮す</p>	<p>当システムは、平成20年度に運用開始して以来、データの蓄積を行っており、サーバーの機能も時代とともに性能向上したものを使用することにより、同等の価格となった。</p> <p>他者にも見積もりを依頼したが辞退するという申し出があった。</p>

<p>る。</p> <p>価格の妥当性や、スペックの妥当性を判断するうえでも、専門的な第三者に評価してもらうべきである。</p>	
--	--

審議の結果

<p>今回の入札に関しましては、公正に行われていると判断させていただきます。</p>
--